

第2回 熊本復旧・復興4カ年戦略委員会における委員意見(効果検証)

【分類】A: KPIに関する御意見 B: 効果検証の記述等に関する御意見 C: 新たな御提案等 D: その他

No.	分類	頁	交付金事業の区分	交付対象事業(プロジェクト名)	構成事業名	委員意見(概要)	対応・考え方	効果検証の修正	担当部局
1	C	—	交付金事業全般	—	—	両交付金事業を通じて、健康福祉部は2件と少なく、さらにセミナーの開催や啓発活動が中心になっている。交付金事業は、先駆性のある取組み等が対象であり、地域包括ケアシステムの推進、「地域共生社会」(地域での支え合い事業)の実現や農業・工業・商業と福祉の一体的事業等は、当該事業の目的に合致する試みと考えられるので、次回は、このようなことも考えてみてはどうか。	健康・医療・福祉の分野においても交付金事業の更なる活用について、検討を進めて参ります。	無	健康福祉部
2	C	—	地方創生推進交付金事業	—	—	全体を見ると、担当部局ごとに似ている事業がある。全体をどのように取りまとめているのか。 また、同じようなテーマ、人、地域等で関連付けて一体化していくことで、より実現に近づくと思う。 さらに、地方創生推進交付金事業は、一種の試みと思われる。成功・失敗の記録をしっかりと残していただきたい。	交付金事業については、担当部局から提案された事業をもとに、関連する複数の事業で1つのプロジェクトを構成することにより、設定した指標の達成に向け、より効果を発揮できるよう取りまとめを行っています。 委員の御意見も踏まえ、今後も事業実施の結果をしっかりと記録・検証し、地方創生の実現に資する取組みを進めて参ります。	無	企画振興部
3	B	7	地方創生推進交付金事業	IoTを核とした人材育成と実証による産業創出イノベーション推進事業	1 「熊本県IoT推進ラボ」事業	IoTに関する人材育成は急務であり、IoTを活用したビジネスアイデアを検討するワークショップへの参加企業の実績が10社は少な過ぎる。広く広報し、熊本大学などのリカレント教育などと連携を取り、総合的な育成プログラムに進化させ、産業創出につなげていただきたい。	IoT推進ラボの取組みに参加する企業を増やすため、当該事業で連携している(一社)熊本県工業連合会等に対し、積極的な参加を働きかけて参ります。 また、IoT技術の体験ができる「IoTスクウェアくまもと」等を活用して、外国人留学生等のIoT推進ラボ参加メンバーのIoTへの理解を深め、新たな商品やサービスの創出を図ります。	無	商工観光労働部
4	C	9 他	地方創生推進交付金事業	がんばるけん！くまもとけん！企業再生・復興担い手確保プロジェクト 他	6 くまもと復興人材UIJターン促進事業 他	UIJターン促進事業は待ちの姿勢になっていないか。プロフェッショナル人材戦略と連携し、積極的に人材を登録したプールを作り、地域企業とのマッチングを図る。さらに登録した人材に必要な教育を受けるチャンスを与え、登録人材のレベルアップを図る。このような積極策を盛り込むべきである。 また、就職支援会社は、企業からマッチングした人の年収の一部を収入として得ている。 例えば、UIJターン促進事業によりマッチングした方に対し、企業が相応の額を引越代等として支給するといった仕組みを作っていたらと思う。	「熊本県UIJターン就職支援センター」においては、県外大学への訪問や、東京・大阪・福岡で開催される就職イベントでのPRなど、UIJターン就職希望者の掘り起しの強化を実施しています。 また、プロフェッショナル人材戦略拠点とは一部の求人情報を共有し、当センターの登録者とのマッチングを行うなど、更なる連携に努めて参ります。 今後も、UIJターン就職希望者や県内企業に対し、UIJセンターのPRに取り組み、マッチング支援等の機会を活用していただくことで、求人・求職活動における負担軽減に努めて参ります。 さらに、県と県内企業が協力して、UIJターン者等に赴任費用等を支援する制度を創設します。	無	商工観光労働部

【分類】A:KPIに関する御意見 B:効果検証の記述等に関する御意見 C:新たな御提案等 D:その他

No.	分類	頁	交付金事業の区分	交付対象事業(プロジェクト名)	構成事業名	委員意見(概要)	対応・考え方	効果検証の修正	担当部局
5	C	15	地方創生推進交付金事業	15 環境負荷を抑制する循環型ビジネス等の構築に向けた地域未来投資促進プロジェクト<地域未来投資>	1 BDFの活用推進のための環境整備事業	BDF*は、地球温暖化の視点から見ると推進する価値があり、多くの雇用を生み出すと思われるので、力を入れて取り組んでいただきたい。 また、BDFについては、2020年東京オリンピックでの利用を働きかけていただきたい。 *Bio Diesel Fuel(バイオディーゼル燃料)の略。植物油(使用済み天ぷら油等)から作られる「軽油の代替燃料」のこと。	BDFの普及については、J2ロアツ熊本の選手移動用バスで利用するなど、「熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議」において重点的に取り組んでおり、今後は、県内で行われる国際スポーツ大会等での利用も目指して参ります。 2020東京オリンピックでのBDF利用については、当取組みの機運を醸成する機会でもあることから、引き続き、大会組織委員会等に働きかけを行って参ります。	無	環境生活部
6	C	17	地方創生拠点整備交付金事業	1 産業技術拠点高度化プロジェクト	—	産業は広く捉えるべきであり、産業技術センターの高度化はもちろん、農業研究センター、県南フードバレー、誘致企業の研究開発部門間の密な連携創出拠点を設け、ニッチトップの事業創出につなげていただきたい。	産業技術センターでは、技術・ノウハウや分析機器を他の研究機関にも提供するなど、ソフト面で機会を捉えて関係機関との連携を積極的に実施しています。 また、異分野技術の融合をキーワードとして、農商工連携分野や医工連携分野における技術開発事業を通じて、ニッチトップの事業創出を図って参ります。	無	商工観光労働部